

2. 安全管理と活動のマナー

●事故の予防、対策

- ・活動する場所を必ず下見し、**危険箇所**の位置やアカエイなど**危険生物**の存在を把握します。想定しうる危険について事前に対処方法を考えます。あわせて、**トイレ**や**避難場所**の位置も把握します。

〈海・干潟の危険生物、注意を要する生物〉

イソヌカカ(昆虫/血を吸われるとかゆい)・アカエイ※(魚/毒をもつトゲがある)・ゴンズイ(魚/毒をもつトゲがある)・インガニ(カニ/強力なハサミをもつ)・カツオノエボシ(クラゲ/毒をもつ触手がある)・アカクラゲ※(クラゲ/毒をもつ触手がある)・マガキ※(貝/食中毒、鋭い殻に注意)・ムラサキガイ(貝/食中毒に注意)

※印の生物は、本教材の「生きもの写真集・紹介集」を参照

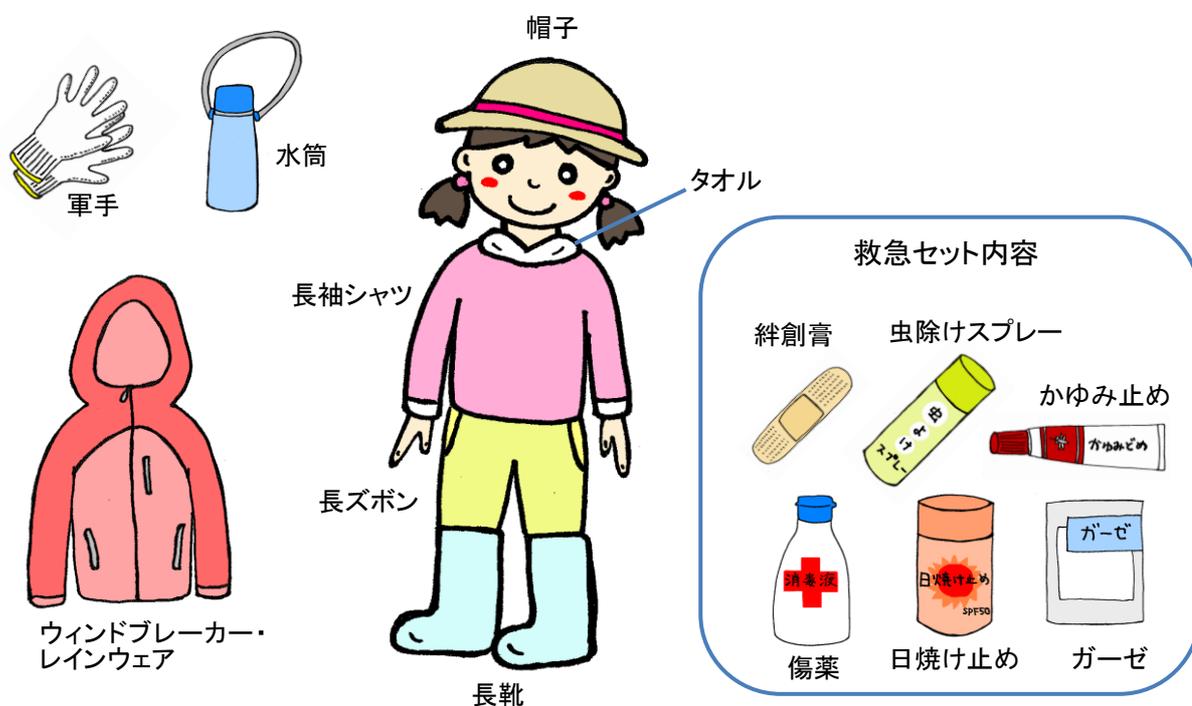
- ・参加者に特別な**病気**や**アレルギー**などが無いのか、事前に確認します。
- ・参加者の家族の連絡先、活動場所の公園管理事務所、病院など**緊急連絡先**の電話番号を控えておきます。
- ・場合によって、**保険**への加入も検討します。
- ・**救急セット**(次ページの「野外での服装、持ち物」参照)は必ず持っていきます。
- ・干潟には日陰がありません。**帽子**を必ずかぶり、**日焼け止め**を塗るなどの対策をします。**長袖の服**、**長ズボン**を着るとケガも防げます。**タオル**は日よけにもなります。
- ・曇天のときは雨にそなえて、**レインウェア**を用意します。足元は、水たまりでも大丈夫なように**長靴**を用意します。
- ・夏場は汗をかき、体の水分が不足します。必ず**飲み物**を用意します。また冬場は北風が強く、体温を失いやすいので、**セーター**や**フリース**などの上に**ウィンドブレーカー**や**レインウェア**を着ます。海辺では陸よりも風の影響を強く受けます。季節による風向、風を遮る林や建物の位置を事前に把握しておきます。
- ・春から秋にかけてのヨシ原の周辺では、蚊などの**吸血昆虫**が発生する場合があります。**虫除け**や**かゆみ止め**を用意します。

●野外で注意すべきこと

- ・**干潮と満潮の時間**を事前に把握し、満潮で潮が満ちてきて陸に戻れなくならないよう注意します。
 ※干潮時間・満潮時間を調べるには、釣具店等で**潮位表**を購入します。また、インターネットを使って、海上保安庁などのウェブサイトから調べることもできます。なお、潮位の動きは場所によって異なるので、活動する干潟に近い地点のデータを参照します。
- ・観察会のオリエンテーションでは、**注意事項**について必ず説明します。
- ・団体で活動するときは、全体での移動は、ばらばらにならずに常に**一緒に行動**します。
- ・干潟では泥が深く、足が抜けなくなる危険な箇所もあります。**活動範囲**と**注意事項**をしっかりと伝えます。
- ・要所で参加者の人数を随時確認します。
- ・近くで雷が鳴ったら観察会の予定をきりあげて撤収します。

●野外での服装、持ち物(季節や天候、活動内容に応じて準備してください)

- 帽子
- 長袖シャツ・長ズボン
- ウィンドブレーカー・レインウェア
- 長靴
- タオル
- 軍手
- 水筒
- 救急セット(傷薬、ガーゼ、絆創膏、虫除けスプレー、かゆみ止め、日焼け止め)
- 緊急連絡先(参加者の連絡先、病院の連絡先)
- ゴミ袋



●活動のマナー

干潟は生きものたちのすみかです。干潟に入るときは、誰かの家を訪れる訪問者のような気持ちになって活動します。

- ・干潟で観察するときは、生きものが逃げたり隠れたりしないよう、なるべくそっと動きます。
- ・泥の中の生きものを掘り出したあとは、泥や砂を元の場所に寄せます。また、むやみに掘りかえさないようにします。
- ・石や流木をどけて生きものを観察したら、元通りにします。石や流木の下も生きものすみかです。
- ・生きものはやさしく扱います。小さな生きものは、手で持たずに透明な容器などに入れると、じっくり観察することができます。
- ・観察を終えたら、採集した生きものは元の場所に放します。
- ・生きものを追いかけたり、いたずらしたりしてはいけません。
- ・ゴミを見つけたら持って帰ります。